

の東京  
影響言葉

東京言葉と  
九州言葉

の進取敢爲  
氣象象爲

長崎喧嘩

鎖國政策

大規模な  
密貿易

理想郷

階級制度

長崎市史風俗編 序 説  
できるであらう。

四四

明治以降内國交通は著しき發達を遂げた。教育も普及した。そして印刷物は盛んに刊行さるゝやうになつた。ために長崎方言は著しく東京言葉の影響を受けた。特に諸種の印刷物に言文一致体が盛んに用ひられ、唱歌や學校教科書などに東京言葉を用ふるやうになつてから、東京言葉の影響が著しくなつてきた。そして長崎言葉の或物は年若き青年や子供たちの間には漸次用ひられぬやうになつてゆくのである。中には、同じ日本語であり乍ら、長崎言葉は卑しくて東京言葉は雅であると考へて、強ひて長崎言葉を排斥するものさへある。單になまりの甚しいのを排斥するばかりでなく、東京言葉に行はれずして九州に生存せる言葉さへ卑むものがゐる。

### 十三、長崎人氣質

長崎人は、鎖國以前に於ては、萬里の波濤を越えて遠く海外に梯航した。進取敢爲の氣象を發揮した。随つて鎖國時代に於てすら他郷人に謳はれた長崎喧嘩の如きは鎖國時代以前に於て最も異彩を放つたものと考へたい。

鎖國政策は日本人の海外雄飛の意氣を全く抑制した。長崎人の或者が鎖國初期を距る遠からざる寛文延寶のころから享保のころに至る期間に於て大規模な密貿易に敢て従事したのも、一つは海外雄飛當時の氣象の一轉化して發露したものと觀ても差支はあるまい。

長崎が鎖國時代に於て本邦唯一の外國貿易港であつた事は長崎人に諸種の特權を與へた。加ふるに長崎の地理や氣候はこの特權を享有する長崎をして一つの理想郷と化せしめた。

内國的には、長崎は、所詮、僻陬の地に過ぎざるも、對外的には、最も有利なる土地となつた。内國異邦の産物は長崎を以て一大集散地となした。そして本邦の誇りとなす長崎縣水産物は長崎を以てその集散地となした。また外國貿易による經濟的利便の存續は、斯くの如き特權と共に、長崎人の生活改善に、將又長崎人の生活安定に偉大なる寄與をなした。そして、やゝもすれば、長崎人の蓄財心をして薄らぐに至らしむるのであつた。

地役人は、所謂天領の役人であつても、地位甚だ低く、階級制度の發揮せる時代に榮達を望むが如きは全く不可能であつた。また彼等の役目は概ね世

海外渡航禁止

襲的なりし爲め、自ら分に安んずるの風があつた。

長崎人の主体をなす町人階級特に商人は、海外渡航を嚴禁されてゐたので徒らに坐して外船の入津を待つより外に方法を見出さなかつた。唐人船や紅毛船の入津は、彼等にとりては、全く寶船の入津に外ならぬのであつた。

穢多、非人、乞食等は姑く措き、混血兒は日本人にして日本人に非ざるが如き待遇を受けた。

轉吉利文丹やその系統に屬する者は或時期まで窮屈なる制限に束縛されてゐた。

人種差別觀念

また浦上の吉利支丹などは、信仰のために、一層窮屈な思ひをしながら二百餘霜を暮して行つた。

棄教者

要するに、鎖國時代に於ける長崎人は、階級制度のため、海外渡航禁止のため、人種差別觀念のため、或は信仰の自由を缺ぎしたため、自然活氣を滅殺され、消極的となり、往々意氣銷沈せざるを得なかつた。

但だ長崎が本邦唯一の外國貿易港であり一つの理想郷であつたことは、長崎人に多大なる慰藉と安心とを與へた。斯くて長崎人は、この状態の久しき

人間味

存続によりて概ね人間味に生きて行くのであつた。

民族對民族の關係

この間、長崎に於て、民族對民族關係の久しき存続は、長崎人と異邦人との相互間の理解を進め、親善の度を増したことは特筆すべきことである。長崎人は異邦の民を迎ふるに敬愛の念を以てし、送るに惜別の情を以てした。來舶唐人や紅毛人の長崎滞在は、彼等自身にとりても、永く愉快なる思出となつた。安政開港と共に長崎は本邦唯一の外國貿易港たる特權を失却した。併し開港場として存続した。花やかな天下の長崎は最早歴史に化石せられてゐる。皇政維新以降、我國百般の制度文物は一變した。鎖國時代の制限不自由は悉く撤廢された。

鎖國時代の制限撤廢

現代の長崎人は到底鎖國時代の長崎人の氣分を容易に味ふことの出来ない程聖代の恩澤に浴してゐる。

人情敦厚

長崎人は概ね傳統的に人情敦厚である。そして傳統的消極を悉く脱却してゐないやうである。時勢は變遷してゐる。人情敦厚の人生に最も大切なる眞

傳統的消極

意義を新に感悟すべき時機は既に熟してゐる。過去の制度によりて發生せる傳統的消極は、過去の制限の撤廢と共に、無意義となつてゐる筈である。